

2023年度(令和5年度)

人権尊重をめざす人権作品紹介

人権作品

詩部門

《入選者》

きたのしょうねん
北野小3年

かわぐちひより
川口陽葵

やしゅうねん
野洲小4年

ごろうまる
五郎丸あかり

ちゅうずしょうねん
中主小5年

たなかゆえ
田中結恵

きおうしょうねん
祇王小5年

にしむらひより
西村陽依梨

きおうしょうねん
祇王小5年

つつみかりん
堤果凜

きたのしょうねん
北野小5年

のむらしゅんすけ
野村俊介

しのはらしょうねん
篠原小6年

てらだゆうき
寺田悠希

みかみしょうねん
三上小6年

ふくいはづき
福井葉月

みかみしょうねん
三上小6年

もりもとだいち
森本大智

きたのしょうねん
北野小6年

きたのりょうじ
北野凌司

いろえんぴつ

きたのしょうねん かわぐちひより
北野小3年 川口陽葵

いろえんぴつの白って、
つかわれない。
だって、
がようしの色って、
だいたい白
だから、
めだてない。
でもだれかに、
白は、
つかってほしい。
人だって
かつやくしたい。
ゆきの白、
つかってくれるかな。
まってるよー。



おかしくないよ

やしゅうねん ごろうまる
野洲小4年 五郎丸あかり

おとここがが
男の子がハット形のぼうしをかぶっていた
それを見た人がクスッと笑った
全ぜんおかしくないのにな

おんなこがが
女の子がキャップ形のぼうしをかぶっていた
それを見た人がクスッと笑った
全ぜんおかしくないのにな
おんなこがが
女の子が男の子のようなことをしてたって
おとここがが
男の子が女の子のようなことをしてたって
なんにも全ぜんおかしくない
なんにも全ぜんおかしくない

ぼくの道

みかみしょうねん もりもとだいち
三上小6年 森本大智

ぼくは小学六年生
身長が百七十センチメートルある
しゅみはピアノをひくこと
大人の人からよく
「何かスポーツやってるの。」
ときかれる
ぼくが
「何もやっていない。」
と答えると
「ええ、もったいない、体が大きいのに。」
ぼくがやりたいことは音楽なのにー
ぼくはぼくの道を進む



ちゆうすしやう ねん なかじま あずみ
中主小4年 中島 愛純

ぎおしやう ねん うめだ あきな
祇王小6年 梅田 明奈

や すしやう ねん たかだ こうた
野洲小6年 高田 鴻太

や すちゆう ねん ふくしま ゆう
野洲中2年 福島 優

しのはらしやう ねん はし ゆうな
篠原小4年 林 優菜

や すしやう ねん かいげ ゆいな
野洲小6年 海下 結菜

きたのしやう ねん いわい みれい
北野小6年 岩井 美澗

みかみしやう ねん よしやま こうたろう
三上小5年 吉山 晃太郎

や すしやう ねん なかもら なつめ
野洲小6年 中村 夏芽

ちゆうすちゆう ねん つじ しやうり
中主中1年 辻 昇璃

差別のない世界を実現するために

や すしやうがっこう ねん たかだ こうた
野洲小学校6年 高田 鴻太

私は、どのような理由があっても差別はいけないことだと考えています。

最近、社会の歴史の授業で龍安寺について学びました。龍安寺の石庭は、水や木を一切使わず白砂の上に15の石を置いて作られた石庭です。そんな石庭をつくったのは、そのころ差別されていた人たちでした。当時の日本では「八百万の神」といってこの世に存在する全てのものや現象に神様が宿っていると言われたので、自然のものを切ったり動かしたりするのは罰当たりなことだと考えられていたらしいのです。しかし、その人たちは差別されつつも優れた技能を持っており、芸能で活躍したり農民や商工業者となったりする人もいました。また、龍安寺の石庭は今や世界的に有名で、たくさんの観光客が訪れる観光地となっています。

このことを学んで、私は差別の理不尽さに気付かされました。そして、昔も今と同じように差別があったことを知りました。いや昔に差別があったからこそ、今もあるのかもしれない。差別というものは、生まれるのは簡単でなくするのは困難だと聞いたことがあります。今ある差別も、昔からずっと続いてつながっているにちがいありません。

授業をきっかけに差別とは一体何なのだろう、どうして生まれるのだろうと考えてみました。差別が存在するには、差別する人と差別される人がいなければ始まりません。

しかし、差別する人も自分が差別されるのはいやだと思っているに決まっています。つまり、自分さえよければいいという気持ちが差別を生むことにつながるのではないかと思います。また、差別される人たちは立場が弱く、差別する人たちはとても強いことが多い気がします。逆はありえません。差別がなければ同じように生きていたかもしれない人々の間に、差別によって人間としての上下がつくられてしまうことがあるのだとすると、それはとてもこわいことだと思います。他人は自分とはちがう人間だという思いが強くて、その他人よりも自分の方が優れた所にいたいという気持ち、それこそが差別なのだと思います。

世の中には様々な人がいます。ちがいはたくさんあるけれど、人間としての尊さはみんな同じはずです。人権のない人はいません。住んでいる地域や性別、職業などに関係なく誰もが生まれながらに人権を持っています。差別をするということは人権を無視することです。そんな行為を許すわけにはいきません。差別のない世界を実現するためには、見た目や考え方、好き嫌いなど、それぞれのちがいを認め合うことが大切だと強く思います。今、身近にいる家族や学校の友だち、将来出会う人たちとのちがいに直面したとき、相手を否定せず歩み寄れる人になりたいです。

ちようどいいって難しい

中主中学校1年 辻 昇璃

「昇璃、今日は学校に行ける？」

僕は「行くよ」と答えます。これが朝起きた時の会話です。どうしようかなあとは思いますが行く気でいっぱいです。「具合が悪くなったらすぐ連絡しておいで」と言われるとちょっとホッとします。

幼稚園のころ、僕は鬼ごっこが大好きでよく友だちに「鬼ごっこしよ」とさそっていました。そのころから僕は走るのがみんなよりおそくてすぐに鬼につかまってしまうし、鬼になるとみんなをつかまえることができませんでした。「おせいねん」や「あいつおせいからあいつねえ」とか言われてることが僕に聞こえてきました。ただみんなと楽しく鬼ごっこをしたかっただけなのにくやしくて、よく泣いていました。

小学生になって車椅子に乗るようになってから「なんでコレ、乗ってんの」と言われるようになりました。「足が悪いから」と答えます。聞かれるのはいいんですが、これ以上のことを聞かれたら、どう答えればいいのか少しなやんでしまい、聞かれるのが怖いです。

僕がお願いしなくても周りのみんなが助けられるようになりました。校外学習や修学旅行では、車椅子を押してくれたり、荷物を持ってくれたりしました。また、話をするときには僕の目線に合わせてくれたりしました。みんなの優しさがうれしいです。

その反面、気をつかわれすぎること多いです。たとえば、みんなと立って野球をするときに打ちやすいようにゆっくりな球を投げてくれました。でも僕はみんなと同じ速い球を思いきり打ちたかったです。それに僕が車椅子から立ち上がるたびに「大丈夫？」と声をかけてくれるので人前で立つのが、少しいやになってしまいました。他にも鬼ごっこのときに鬼が追いかけてくれません。悲しいです。鬼になったら、かわいそうだと思ってくれていると思いますが、僕は鬼になったら全力で追いかけようと思っているのに。障がいを持っている人に対して、気をつけてくれるのはいいけど、そんなに気をつかすぎなくても僕はいいと思う。僕自身はあまり体のことを気にしていない。

ちようどいいって難しいな。

人権作品 標語部門 《入選者》

だいじょうぶ きみは大切な 友だちだ

それいいの そのわるぐちを なくそうよ

かんしゃの木 育てばニコニコ えがおの実

ありがとう 言った人も うれしいな

なににもかも 人にまかせず ちようせんだ

自由に 選べることに「感謝」しよう

ありがとう 相手の心に 花が咲く

助け合い 待つより先に 自分から

考えよう 送信ボタン おす前に

一言で 助けられるか 失うか

中主小2年 河村 悠生

北野小2年 岩井 健斗

祇王小3年 山本 絢菜

野洲小3年 阿部 翔駿

三上小4年 西村 太志

篠原小5年 井狩 真子

中主小6年 山崎 星奈

野洲中1年 中西 ゆず

野洲北中1年 平川 郁磨

野洲北中1年 東郷 ひなの

じんけん さくひん ぶん
人権作品 ポスター部門

にゅうせんしや
《入選者》



しのはらしょう ねん よしむら はると
 篠原小1年 吉村 羽瑠斗



ちゅうずしょう ねん のじり かお
 中主小2年 野尻 夏央



やすしょう ねん やまざき はじめ
 野洲小2年 山崎 初芽



みかみしょう ねん こじま なな
 三上小3年 小島 菜々



ぎおうしょう ねん いちだ かりん
 祇王小4年 市田 花鈴



やすしょう ねん よねだ ほのり
 野洲小5年 米田 帆織



ちゅうずしょう ねん みとま ゆいと
 中主小6年 三笛 結翔



やすきたちゅう ねん とみはら たまり
 野洲北中2年 富原 玉莉



やすちゅう ねん なかやま れいあ
 野洲中3年 中山 怜亜